

クルーズ旅行はいま、シニア世代で人気が高まっています。航海日数も、船の大きさも千差万別ですが、なかでもユニークなのが、ピースポートクルーズです。豪華客船に比べ安い半面、毎夜の豪華ショーやカジノはなく、食事も普通です。何より、他のクルーズとの違いは、とことん乗客が主役になっていることです。

私は、2017年8月13日から11月24日までピースポートの第95回クルーズで世界一周をしてきました。横浜を出航して西回りで、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、ハワイを経て日本に戻りました。訪れた国は19か国、寄港した港は23か所にのびります。

乗客は約1100人。1歳の女の子から95歳の女性までさまざまな年代の男女と、中国や東南アジアの人も200人ほどが加わりました。船内では日本語のほか、英語・中国語・韓国語が飛び交い、国際色豊かだにぎやかな旅でした。



大西洋上で

クルーズの基本は、それぞれの港に船が半日から丸1日停泊する間に、乗客はバスなどを利用して観光に出かけます。観光コースは旅行会社がたくさん用意しますが、ピースポートではこのほか、船が港から港へ航海する間に、飛行機を利用する数日間のオーバーランドツアーもありました。私はアンコールワット遺跡ツアーと、ガラパゴス諸島を訪れる2つのツアーに参加しま

した。そのほか、アウシュビッツ見学ツアーやマチュピチュ観光ツアーもありました。

航海中、船上では朝から晩までさまざまなイベントが目白押しです。早朝の甲板は太極拳やウォーキングをする人であふれ、朝食後には、ダンス（社交ダンス、サルサダンス）やヨガ、絵画などのレッスンが行われます。大きなホールでは、各種の講演会や映画の上映が行われ、さまざまな部屋で企画イベントが開かれます。

「水先案内人」制度はこのクルーズの大きな目玉です。航海中、延べ30人以上の各種の専門家がそれぞれ短期間船に乗り、次々に自分の得意分野を話します。アジア航路では、元NHKディレクターが「世界遺産」の話を次々に紹介。インド洋では、旧ユーゴスラビアの内戦の歴史をビデオジャーナリストが映像を交えて報告しました。単なる観光案内だけではなく、訪問する国の歴史についても、こうした「ガイド役」からいろいろと事前に知識を得ることができました。反原発の裁判闘争をしている弁護士が「世界の再生エネルギー開発」などの映画を上映し、会場はいつも満員でした。

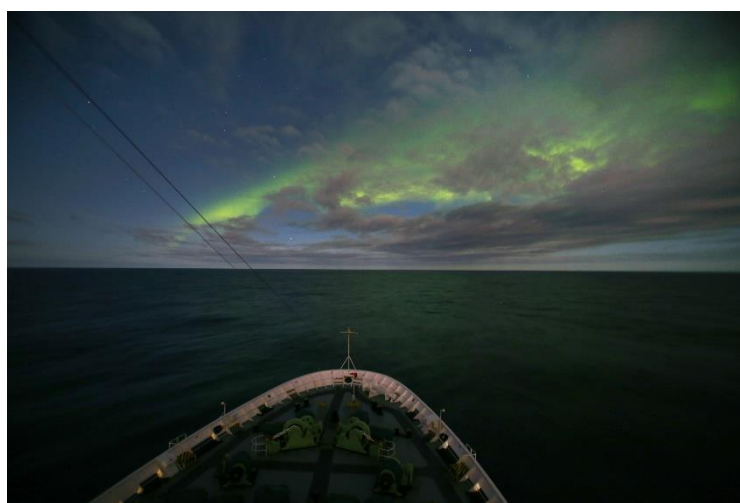
こうした企画やイベントは毎日発行される「船内新聞」のスケジュール一覧表に書かれて

いるので、乗客はそれをもとに、「明日はどんな風に過ごそうか」と考えます。インドからギリシャまでは2週間近く洋上で過ごします。そんな時は、デッキのうえで「夏祭り」が盛大に開かれ、浴衣姿の乗客が盆踊りに大勢参加しました。また、ホールでは「のど自慢大会」や「一芸大会」が次々に開かれます。ハワイに向かう太平洋上では船上大運動会、ハワイを出ると船内英会話教室の生徒による「スピーチフェスティバル」も開かれました。

「乗客が主役」というのは、こうしたイベントの表舞台だけではなく、準備をする裏方にも乗客が大勢参加していることです。例えば、夏祭りが近づくと、ピースボートの事務局から「応援団募集」の案内が出て、大勢の若者が手を上げました。

小さな部屋では、乗客たちの「自主企画」が目白押しです。自分が得意とする曲技を教える人、手話教室を開く人、なつかしのCDを持参して「歌声喫茶」を開く人。元看護婦の乗客が「看護婦さん集まれ」という企画を開いたり、地方の人が「●●県の人、集まれ」と呼びかけたり。乗客が講師役になる講演もあります。私もちょうど航海中に総選挙があったこともあって、「日本の政治」について話して欲しいと頼まれ、1時間ほどしゃべりました。

こうした企画に参加するもしないも、すべて自由。しかし、私はこうした活動で大勢の人と知り合うことができました。そのなかには、シンガポールのご夫婦もいます。



アイスランド沖のオーロラ

ピースボートは、乗客同士が交流することを強く勧めていて、そのための企画が多くありました。船内家族もその1つです。「船内家族を作りたい人集まれ」という企画に参加したところ、たまたま近くにいた私と男女の若者やシンガポールの女性の7人がかき集められ、即席で家族を作りました。私が「お父さん」役です。すぐにつながりが壊れる「家族」もありますが、私たちは下船まで仲良く付き合いました。

繰り返しこのクルーズに乗っているリピーターが大勢いるのにはびっくりしました。2、3回どころか、5回も6回も乗っている人がいます。家やお金は大丈夫かと心配になりますが、それだけ強い魅力があるということでしょう。

ピースボートの特徴は、手軽に、かつ日本語で世界1周が楽しめる日本で唯一の定期クル

私がクルーズに参加したのは、昨年6月に会社を退職したのがきっかけです。以前から漠然と興味があり、仕事に区切りがついたことで乗船を決めました。ピースボートを選んだのは、値段が比較的安いことと、知人から「服装はカジュアルでよく、毎日が退屈しない」と聞いていたからです。実際、その通りでした。

ーズであることです。ただ、コストを下げるため、20代のボランティアスタッフを大勢使うなど、豪華客船並みのサービスは期待できません。そこを理解しておかないと不満ばかりがたまってしまいます。豪華船「飛鳥」で旅行をしたこともあるご夫婦がピースボートクルーズに乗っていましたが、みんなと仲良く楽しんでいました。

私の場合、8月の出航を最終的に決めたのは5月末でした。自分の健康と、家族の健康を確かめて、長旅ができると判断しました。家内は孫の世話と、自分の仕事を抱えていたので、乗船しませんでした。「1人旅」を快く応援してくれた家内には感謝をしています。

退職すると人との付き合いがすっかり減ってしまうとよく聞きますが、私はクルーズのおかげで全国に知人が増え、メールにはいろんなグループからの旅のお誘いが今も来ています。

アクティブシニアの時代をいかに生きるか。これは私のような世代の者には大きなテーマですが、これからもいろいろなことに挑戦をしていきたいと思っています。 以上

ピースボート第95回世界一周クルーズ航路図（寄港地一覧）
（2017年8月13日～11月24日）

